

2017 年実践的防災まちづくりコーディネーター養成講座 《講義録 4 限目》

《講座のメインテーマ》

防災の最新知見と

地域防災実践事例を学ぶ

記録：講座協力委員 紅林敏行

◆開催月日：2017 年 11 月 2 日(木) 13:30～17:00

◆開催場所：KU ポートスクエア

◆本日のテーマ◆ 災害弱者への支援を学ぶ

・前半：『港南区プロジェクト R の誕生背景、現状、今後を語る』

講師：榊原 秀和 氏（横浜市港南区福祉保健センター高齢傷害支援課 課長）

・後半：『金沢パークタウンの民生主導の自主防災活動事例報告』

講師：佐橋 暁子 氏（横浜市金沢区金沢パークタウン自治会民生・児童委員）



講義の様子



講師：榊原秀和氏

《港南区プロジェクト R(リサーチ)》 『災害時要援護者支援』

- 目的：災害時に援護が必要な方の支援策を検討(2014 年スタートから)障害者団体、特別避難場所に指定されている施設等からメンバー選出
- 東日本大震災の実態(支援される側も、支援する側も犠牲者が多い！)
- 区内の障がい者及び御家族、関係機関、区役所との協働により、当事者の声を反映した『地震に備えて私たちでできること』と『地震に備え見守り支えあうまちに』の啓発ポスターを作成し、配布。
- 地域防災拠点での障がい者支援訓練の実施の呼び掛け、そして実現。2015 年から視覚障害者など要援護者の誘導等の訓練を実施。



進行：田中喜世美さん



講師：早坂由美子氏

《顔の見えるまちづくり！》

- 日頃から声掛けが出来る関係づくりが大事。地域に住む障がい者を知っていますか？高いハードル、障がい者が行事等に参加する事。
- 障がい者が参加できる行事、防災訓練を。
- 『コミュニケーションボード』は有効な情報伝達手段。
- 『白杖 SOS シグナル』(右写真参照)は、視覚障がい者のヘルプサインです。
- 港南区の特別避難所の防災訓練は今年度 1～2 箇所。



講師(写真右)：浮須秀男氏

《まとめ》

- 港南区ではまだまだやっていく！！
- ◇推進 自助・共助の啓蒙
- ◇勧奨 地域防災拠点での要援護者支援訓練
- ◇検討開始 要介護高齢者支援



講師：(写真右から) 佐橋暁子氏 上野恵子氏

《3.11 公園のベンチに座るおばあさんとの会話から援護者支援活動スタート！》

- 「このままではいけない！」民生委員の名簿に載っていない、困っているお年寄りが！見守りの必要性を思い、自治会長に相談。2014 年 1 月、非自治会世帯を含む全世帯(720 世帯)を対象に『災害時近所安否確認支援活動』のアンケートを実施(回収 347 世帯)。
- アンケート結果を踏まえ、2014 年 3 月、『支援希望者及びボランティア参加希望者』を募り、名簿作成に着手(支援ボランティア登録 103 名、要支援者登録 55 名)
- 2014 年 7 月から『ボランティア会議』を開催し、要援護者の安否確認の準備を進める。
- 2015 年 4 月から『防災対策訓練(安否確認)』を実施(『名簿』、『地図』、『おたけちゃん旗(「我家は大丈夫」ラッパ(右下写真参照))』、『パークタウン自治会の腕章』等を準備)。
- 横浜市危機管理課、横浜市国際総合科学部、横浜ボランティアネットワーク、金沢区区役所等の支援も得て、防災減災研修会、防災対策訓練を実施。

第 4 回アイスブレイク

《地震津波・台風・洪水・・・大丈夫な街に住もう》

20 年過ぎても耐震化が進まないのは何故？危険箇所の宅地化、密集住宅を減少出来ないのは何故？・・・等々。私達は、何か間違っていないですか！



玉井裕利さん

《堅実に、防災まちづくりを推進》

- 2017 年 6 月自治会を単位とする『防災ネットワーク』を立上げ。防災倉庫の備品類の使い方の訓練を開始。防災対策訓練に自治会幹事も参加し、情報、消火、応急救護、避難誘導、給食給水の活動実施。
- 課題 自治会の防災組織との連携、防災ネットワークとの連携等。

《まとめ》 防災『も』まちづくり！

地域での見守り、近所の繋がり、助け合いが重要。

自分たちに出ることから活動を始め、そして参加できる人を募り、『災害時近所安否確認支援活動』を開始。要支援者、支援ボランティア、自治会員、区役所、近隣自治会との輪は着実に広がっている。

